

## 飛騨農林事務所の普及活動状況（令和5年4月30日現在）

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■認定農業者 新たに30経営体の認定農業者が誕生

高山市において、今年度新たに30経営体が5年後の経営目標となる「農業経営改善計画」の認定を受け、認定農業者となった。

4月11日、認定書授与式が開催され13名の経営体代表者が出席し、田中市長から認定書が授与された。

新規認定者は、トマトやハウレンソウ等の施設園芸が中心で、経営継承や新規就農者からステップアップした農業者も多い。経営の世代交代が進みつつあり、今後、若手の活躍が期待される。

飛騨管内には、630経営体の認定農業者がおり、農業普及課では市村やJAと連携して、各経営体の経営改善計画の実現に向けて支援を進める。



【認定を受けた皆さん】

#### ■担い手 飛騨市認定新規就農者を巡回し営農状況を確認

4月17日、農業普及課が構成員として参画している飛騨市就農支援協議会は、市内の認定新規就農者9組11名を巡回し、定期面談を実施した。

新規就農者のほ場にて、就農支援協議会のメンバーから、営農状況や経営状況、昨年の栽培実績や今年の生産目標等について質問がなされた。それぞれ課題や改善点はあるものの、経営状況は比較的良好であり今年の生産にも強い意欲を見せていた。

農業普及課では、認定新規就農者が所得を確保し営農が継続できるよう、各関係機関と連携し、継続して支援を行っていく。



【営農状況を確認】

※手前から2人目が新規就農者

#### ■夏秋トマト 夏秋トマト3Sシステム生産者のデータ活用を支援

4月18日、夏秋トマト3Sシステム導入者のうち環境制御システムを活用している生産者を対象にほ場巡回を行った。

巡回には環境制御システムのメーカーも同行し、サイドビニールや暖房機を自動制御するためのモニタリング装置と制御装置の連携方法について生産者に説明を行った。

農業普及課では、定期的な生育状況調査を行い、データに基づいた管理の実践を支援していく。



【生育状況調査を実施】

## 安心して身近な「ぎふの食」づくり

### ■飛騨パプリカ 天敵資材の導入を前に検討会を実施

高山市内では、7名の生産者が夏秋パプリカの生産出荷に取り組んでいる。

本年度より生産者6名と飛騨農林事務所ほか関係機関で構成される「グリーンな飛騨パプリカ栽培協議会」を組織し、国の補助事業である「グリーンな栽培体系への転換サポート」を活用し、化学農薬の代替となる天敵資材を活用した害虫対策の実証などを行う。

4月18日、実証に協力する生産者ほか協議会関係者が参集し、技術導入検討会を開催した。当日は本年度の活動計画を協議するとともに、天敵導入までの留意点及び天敵資材の効果的な活用方法について検討した。

農業普及課では、実証事業の確実な実施について取り組むとともに、持続可能な栽培技術確立に向けて関係機関と連携して支援を継続する。



【天敵資材の導入を前に検討】

## ぎふ農畜産物のブランド展開

### ■ほうれんそう 飛騨地域でほうれんそう目揃え会及び栽培研修会

4月12日から28日にかけて、飛騨地域でほうれんそうの目揃え会が開催された。

農業普及課からは、この時期に発生が問題となるホウレンソウコナダニの対策、ぎふクリーン農業の栽培基準及び排水対策について説明を行った。

今年は各地区ともに降雪が少なく、播種時期が昨年より早まっていることから、昨年と比べて出荷が一週間程度早く、春先から出荷量が多くなっている。

農業普及課としても、ほうれんそうが安定出荷できるよう栽培技術支援及び情報提供等の支援を行っている。



【出荷規格等を再確認】

### ■飛騨市 美味しいお米養成講座を開催

4月22日、飛騨市は市内の水稻生産者を対象に「美味しいお米養成講座」を開催した。飛騨市は「飛騨こしひかり」のブランド力を強化するため、更なる食味の向上に取り組んでおり、2年前より従来の水稻青空教室を拡充して年3回の「美味しいお米養成講座」を開催している。

第1回目となる今回は、古川町公民館で開催され、30名が参加した。農業普及課では、JAひだとともに講師を務め、美味しいお米づくりの基本について講演を行った。参加者からは、登熟を高める栽培方法など、活発な質問があった。

第2回目は、6月下旬から7月上旬頃が予定されており、今回と同様に「美味しいお米」につながるよう支援を継続する。



【スライドを使って講演】